



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/22 (月)	▲ 800	▲ 7,500	▲ 8,300	国債償還 (15年) 国庫短期証券 発行・償還 (3M、1Y)			欧:ユーロ圏消費者信頼感指数 (11月)
11/23 (火)					勤労感謝の日		
11/24 (水)	トン	+ 2,000	+ 2,000		共通担保 (全) ▲ 2,500	社債買入 + 800	米:FOMC議事要旨 (2, 3日開催分) GDP (3Q) 新規失業保険申請件数 (20日終了週)
11/25 (木)	トン	▲ 4,000	▲ 4,000	国庫短期証券 発行・償還 (6M)			日:景気先行CI指数 (9月) 月例経済報告 (11月) 欧:ECB議事要旨
11/26 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	国債発行 (40年)		新型コロナ 企業支援オペ ▲55,500	日:東京CPI (11月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初537兆9,800億円から始まった。17日は5年利付国債の発行を主因に535兆6,900億円まで減少したものの、18日には国債買入オペ等により536兆7,100億円まで増加した。その後、535兆9,400億円を越えた。

週初かつ積み最終日となる15日の無担保コールON物加重平均金利は△0.030%となった。一方、新積み期となる16日には基準比率の引き下げやビッドサイドの様子見姿勢等から弱含み、同金利は△0.038%に低下した。その後も動意に乏しく、週末となる19日まで同水準で推移した。

ターム物は、新積み期スタートの1W~1M物を中心に、主に△0.030%~△0.001%の水準で出が見られた。

16日、日本銀行は「地域金融強化のための特別当座預金制度」の見直しを発表し、特別付利対象金額の上限を引き下げた。

来週の主な予定は、国内では25日に景気先行CI指数 (9月) や26日に東京CPI (11月) の公表、海外では24日に米GDP (3Q) の公表等がある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.085 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

### <レポ>

今週の足許GC取引は、週初△0.10%近辺の出合いから始まった。その後も週を通して同水準で推移し、短国1Y・3Mの発行が重なる22日受渡しも△0.105%~△0.10%の出合いが中心となった。SC取引では2年410~429回債、5年137~149回債、10年333~364回債、20年163~178回債、30年69~72回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約8,000億円で、週間償還額 (約4,000億円) を上回った。発行市場は、鉄鋼や小売業、陸運業等の幅広い業種にて大型案件が実施され、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の24兆6,315億円から、18日時点で24兆8,197億円に増加した。発行レートは、引き続き、希少銘柄等においては深いマイナスレートでの出合いも見られたが、大型発行案件については浅いマイナスレートでの出合いとなった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (約1兆1,400億円) を含め約1兆3,700億円程度となっている。発行市場は、月末日の大量発行が見込まれるため、発行増が予想される。発行レートは、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄等では、引き続き深いマイナスレートでの出合いを予想する。25日に、CP等買入オペが5,000億円で実施される予定となっている。

### <TDB>

11月18日の1Y1038回債(2022年11月21日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1241% (前回債△0.1088%)、平均落札利回り△0.1261% (前回債△0.1098%) となり、11月19日の3M1039回債(2022年2月28日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1377% (前回債△0.1210%)、平均落札利回り△0.1388% (前回債△0.1239%) となった。来週は11月24日に6M、11月26日に3Mの入札がある